古石ひでさと4期目に向かっての議会活動
古石　ひでさと
後援会だより
URL：http://古石.com/

第　3992号
発行令和３年１月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　26－2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。
E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

テレワークで遠距離　勤務

経済

テレワークで遠隔地勤務

業務は都市、地方で家族と

「転職なき移住」国も後押し

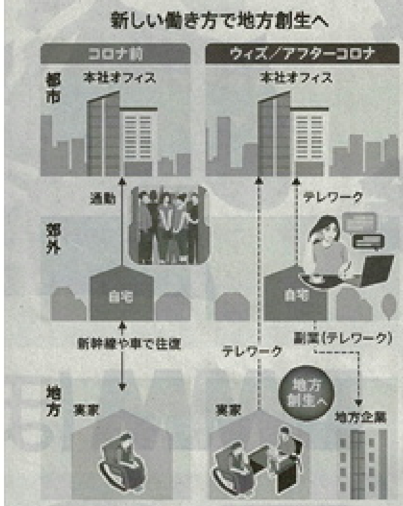
新型コロナウイルス禍でテレワークが普及し、どこでも職場になり得るという新常識が浸透しつつある。遠隔地勤務を認める企業が増え、政府も「転職なき移住」を後押し。故郷を離れたサラリーマンに、都市と地方をまたいで働く新しい選択肢が広がり始めた。

「週末ごとに関西に戻っていたら生活が破綻していたかもしれない」。三菱電機の40代男性社員は語る。2021年5月に試験導入された遠隔地勤務制度を利用、大阪府の自宅から東京本社の空調部門に「出勤」する。決断を促したのは、京都で一人暮らす母の存在。「週に一度は顔を出して話し相手になったりしている」と満足そうだ。

富士通広報IR室の大野貴弘さん(44)の職場は奈良市の自宅。次男の中学受験を控え、「親として受験という一大イベントに関われる」生活を選んだ。JTB人財育成担当部長の河野修治さん(59)は同年8月、東京から故郷の福岡市に転居。社内研修の仕事をリモートで続け、「何ら不自由はない」という。

遠隔地勤務制度が広がるのは、テレワーク環境の整備に加え、「人材配置に柔軟性が持て、離職防止にもつながる」（JTB）など企業側のメリットも少なくないためだ。国も20年度補正予算で「地方創生テレワーク交付金」を新設、「転職なき移住」を推進している。

新しい働き方で地方創生へ



遠隔地勤務を認めている主な企業

自動車	トヨタ自動車
通信	NTT
機械	三菱電機、富士通、リコー
金融	明治安田生命、チューリッヒ保険
システム	TIS
旅行	JTB
サービス	ぐるなび、LIFULL

（一部条件あり）

ただ、テレワーク中心の働き方は社員間の交流などの課題も浮き彫りにした。三菱電機の小野木純人事部次長は「ビジネスとしての生産性と自由な働き方には一部ぶつかる部分がある。従業員の自由な発想やモチベーションを業績に結び付け、高次元で融合させることが必要」と話している。

地域企業を副業で支援

都市部の会社員と地域企業を「副業」でつなぐサービスが活況だ。地方にもテレワークが普及し、人手不足をオンライン副業で補うことへの抵抗感も薄れてきた。転職や転居を伴わない気軽な地域貢献として関心が高まる。

副業人材とオンライン会議をする菓子店の社長＝石川県輪島市で

石川県輪島市の菓子店「柚餅子総本家中浦屋」は20年11月、リクルートのマッチングサービス「サンカク」を通じて5人の副業人材を採用した。コロナ禍で実店舗の販売が激減する中、副業チームは1年間、オンライン販売の強化に取り組み、月4、5割ほど売り上げが伸びたという。

チームの一人、金沢市出身の40代女性は東京都内の企業でデジタルマーケティングを担当。「もともと地元に貢献したいという思いがあった。テレワークで浮いた時間でサポートできたのはうれしい」と話す。中浦政克社長は「客観的にブランディングしていただき、自社の価値を再認識することができた。成果としては十分」と評価する。

パソナグループは21年10月、松山市の企業と副業人材を引き合わせるイベントを開催。都内メーカー勤務で中小企業診断士の資格を持つ同市出身の50代男性は「自分の成長と地域貢献を両立できれば」と参加の理由を語る。

地方自治体も副業人材に注目する。石川県は21年度から、副業人材の専門性を活用して地元企業の課題解決を目指すモデル事業を実施。リクルートでサンカクを担当する古賀敏幹さんは「地元に貢献したいという思いが集まれば地方創生の大きな力になる」と話す。（時事）

園児の接触者判定 重く

新型コロナウイルスの感染「第6波」の急拡大を受け、道内で保育施設の休園が相次いでいる。札幌市内では25日時点で37施設に及んでおり、各施設は「いつ休園になってもおかしくない」と警戒感を強める。札幌市や道が感染経路を特定する「疫学調査」を縮小したため、濃厚接触者の判定も施設が行うことになり、現場には「保護者の理解を得られるのか不安」との懸念も広がる。道内でコロナ患者が初めて確認されて28日で2年。感染症との闘いの終わりは、まだ見えない。（岩崎志帆、加藤祐輔、松下文音）

保育士 新たな業務「記憶頼み」

立ち向かう新型コロナ
道内初確認2年

コロナ陽性者が出て休園している札幌の保育園で、おもちゃの消毒に追われる保育士＝25日（石川崇子撮影）

「感染した園児が誰とどのくらいの時間、どの程度の距離で一緒にいたのか。記憶に頼るしかなかった」。園児1人の感染が確認され、24、25の両日を休園とした札幌市内の保育園の園長は苦渋をにじませた。

新たな変異株「オミクロン株」による感染急増を受け、札幌市は21日、市保健所の疫学調査の対象を同居家族などに絞り、自宅療養者の健康観察などを重視する方針に転換すると発表。保育施設で感染者が出た場合、各施設で濃厚接触者を特定し、必要な対応を決めることになった。

この保育園では、市が公開した手引を基に職員総出で判定作業を実施。感染リスクを考慮し、感染者と同じ部屋にいた園児と保育士全員を濃厚接触者としたため、PCR検査が必要な園児は約60人、保育士は約10人に上った。濃厚接触者の園児には10日間の自宅待機を求めたが、園長は「保護者の中には『仕事がある。子どもを預けられないのは困る』と理解してもらえない人もいた」と明かす。

検査混雑 長引く待機

受け入れ休止も

保育士不足も深刻だ。厚生労働省は、濃厚接触者となった保育士の待機期間を10日から7日に短縮したが、6日目に受けるPCR・抗原検査で陰性が確認されることが条件だ。ただ、道内の検査場はどこも混雑しており、札幌市私立保育連盟の菊地秀一会長(50)は「検査に時間がかかり、保育士の待機期間が長引く可能性が出ている。検査態勢を整えるか、検査を受けなくてすむ運用を検討してほしい」と求める。

普段通う保育施設が休園し、別の施設に一時保育を希望する人も増えている。札幌市と北広島市で計5施設を運営する「はにかむ保育園」にも連日、仕事を休めない保護者からの問い合わせが相次いでいるが、受け入れを休止している。運営会社の佐々木俊輔専務(41)は「行政の疫学調査が縮小され、感染リスクの把握が難しくなった。心苦しいが、すでに入園している園児を守るためにはやむを得ない」と話す。

親の収入減懸念

保護者の苦悩も続く。札幌市中央区の公務員山本詩織さん(33)は、子ども2人が通う保育園が25日から急きょ休園になり、仕事を休まざるを得なくなった。家族が受けるPCR検査は空きがなく、新千歳空港まで行って30日に受ける予定で、「せめて早く検査を受けさせてほしい」と嘆く。

札幌市中央区のシングルマザーの女性(25)も、長女(2)が通う保育園が22日から休園になり、団体職員の仕事とコンビニエンスストアのアルバイトを休んでいる。昨年も長女が濃厚接触者になり、2週間仕事を休んだ結果、月収は半減した。「休園が長引けば、また生活が苦しくなってしまう」と先行きに不安を募らせている。

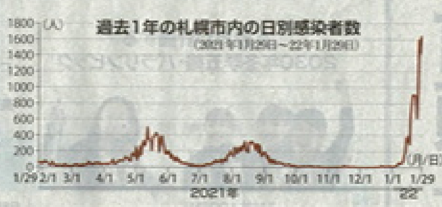
感染が疑われるため、車内で待機している発熱患者に、防護具を身に付けて検査キットの使い方を説明する静明館診療所の看護師＝28日、札幌市中央区

発熱外来 受診できず

札幌の感染急拡大

熱39度「基礎疾患あるのに」

過去1年の札幌市内の日別感染者数
（2021年1月29日～22年1月29日）



新型コロナウイルスの新規感染者が連日千人を超える札幌市内で、発熱外来を開設した医療機関に診療やPCR検査の依頼が殺到している。予約の一時休止などで、重症化リスクの高い患者が受診できない事態が生じているほか、従来は翌日だった検査の結果判明が2日後にずれ込むケースが常態化。市は28日、政府方針に基づき、条件を満たせば、医療機関が検査をしなくても医師が陽性だと判断できるよう方針を転換したが、危機的な状況がどれほど改善されるかは見通せない。（五十嵐俊介、阿部里子）

「基礎疾患があるのに何度も受診を断られた。一時発熱が39度を超え、治療前に重症化するのではと不安だった」。札幌市北区の男性(57)は今月中旬、24歳の息子がコロナに感染した時のことをそう振り返る。

■遅れる検査結果

息子は高脂血症と高尿酸血症を患う。17日に38度の発熱。市の相談窓口から紹介された医療機関に電話したが、予約が満杯で受診できなかった。かかりつけ医にも「保健所に感染の可能性があると判定された」と伝えると断られた。再度、市に相談を寄せ、紹介された別の医療機関で同日夜にPCR検査。結果は翌日にも出ると説明を受けたが、実際は2日後だった。息子は発症から5日後に、36度台まで熱が下がったが、男性と妻も感染した。

発熱外来は市内256医療機関が開設。市保健所によると、1日約2千件の予約枠を確保し、インターネット上で一覧を公表している。ただ土、日曜は基本的に休診。28日午後の時点で、全体の2割に当たる約50カ所は予約に空きがなく、受け付けを一時休止していた。ある内科医は「コロナ以外の患者の診察も必要。院内感染を防ぐためにも発熱外来の予約枠を増やすのは難しい」と打ち明ける。別の医師によると、民間の検査センターの処理能力を超え、患者への結果伝達が2日後になっているという。

■予約、常に埋まる

静明館診療所（中央区）は平日に1日10件前後の予約枠を設けているが、感染者が急増した1月中旬以降、予約は常に埋まっている。最近は子どもの受診も増えている。同診療所の検査の陽性率は約60%。矢崎一雄院長(69)は「感染しているのに検査を受けられていない人がたくさんいる」と指摘する。市医師会の今眞人会長は「症状があり、重

道内感染 初の3千人

急増する道内の新規感染者数　※🟥は最多を更新した日

日	月	火	水	木	金	土
9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
117人	106人	117人	197人	328人	467人	695人
16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
692人	643人	698人	🟥1170人	🟥1437人	🟥1644人	1605人
23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
1591人	1589人	1536人	🟥2091人	🟥2856人	2775人	🟥3002人

道などは28日、新型コロナウイルスに感染した1人が死亡し、新たに計3002人が感染したと発表した。日別の感染者数が3千人を超えたのは初めて。札幌市、旭川市、道発表分でそれぞれ最多を更新し、オミクロン株による感染「第6波」が全道で拡大を続けている。（29面＝新規クラスター3件）

道内の日別の感染者数は19日に初めて千人を超え、1週間後に2千人を突破。その3日後に3千人台となった。これまでの最多は27日の2856人だった。前週の同じ曜日を上回るのは26日連続となる。

発表者別では札幌市が1632人（うち再陽性59人）と3日連続で千人台となり、過去最多だった27日の1590人を超えた。旭川市は102人で初の3桁。道分は1053人で前日より3人増えた。函館市は174人、小樽市は41人で、道内の感染者数は延べ8万7266人（実人数8万6501人）となった。

道内は27日から2月20日までまん延防止等重点措置が適用され、道は全道の飲食店に最長午後9時までの営業時間短縮を要請している。（石依一衛、今関茉莉）